

・待降節第一主日

泉のほとり

今月の詩編「第四十六編」

力を捨てよ、 知れ

わたしは神、

国々にあがめられ、

この地であがめられる。



罪人のひとりになられた神

主イエスが十字架におかかりになった時、「されこうべ」と呼ばれる丘に、三本の十字架が立てられました。主イエスと二人の犯罪人の十字架です。

十字架のまわりにはいた人たちが主をあざ笑い、侮辱しているとき、主イエスは十字架の上で、この人たちのために祈っておられました。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです」。

この主の祈りを聞いていた人がいました。主イエスと一緒に十字架にかけられていた犯罪人です。この人は、自分は本当に悪いことをしたので、死んで滅びるのは当然だと思っていました。それでも、主イエスに聞いてみたのです。「イエスよ、あなたの御国においてになるときには、わたしを思い出してください」。

どんなに皆から侮辱されても、彼らを救ってくださいと祈り続けている主イエスの祈りを聞いていたら、この方が神さまだとわかったのです。この方は決して人を見捨てない。そして、この方は罪を犯して死んでいくこのわたしのために祈っておられる。

十字架につけられると、あとは死ぬのを待つだけです。どんなに自分のしたことを反省して、これから良い人間になって生きて行こうと思っても、そこから降りることはできません。

でも、最後の最後までできることがあります。それは主イエスを信じることです。信じることは、立派なことを成し遂げたり、正しい人とし

て生きることには比べたら、大したことではないように思えます。でも本当は、これが一番大切なことです。

主イエスはこの犯罪人にこう言われました。「はつきり言うておくれが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」。

ユダヤ人たちは、楽園は死んだ後に「行くところだ」と思っていました。でも、楽園に行けるのは、神さまの御心に従って正しい生活をしている人だけです。十字架にかかっているような犯罪人は、楽園に行くことはできません。

ところが、その絶対に楽園に入ることができないはずの犯罪人に、あなたは楽園にいると言われたのです。しかも、死んだ後ではなく、今日、あなたは楽園にいると。

それは、主イエスが一緒にいてくださるからです。自分では絶対に楽園に入ることができないから、主イエスが来てくださって、絶対に楽園に入ることのできない罪人を楽園に入れてくださったのです。

「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」。これは、罪のために死んでいく罪人に、最後に主イエスが告げられた言葉です。そのために、主イエスは罪人のひとりになられました。誰よりも罪人の近くにおいて、あなたは救われていると告げるためです。そして、主は十字架におかかりになって、一緒に死んでくださいました。

主イエスを信じるあなたにも、主はこう言うてくださいます。主イエス・キリストは、罪人を罪から救う救い主だからです。

暗い思いに襲われたときに

わたしの主である神よ、
暗い思いがわたしを訪れています。

思い煩いがわたしを砕こうと脅かし、

わたしはどうしたらよいかわかりません。

あなたがお与えになったことに

耐えるだけの力を、

わたしに与えてください。

恐れなどに、

わたしを支配させないでください。

わたしの妻と子どもたちに対して、

父らしくかえりみてください。

ああ、恵み深い神よ、

わたしが犯したすべての罪を、

あなたと、

わたしの周囲の者たちに対して

犯した罪を、おゆるしください。

わたしはあなたの恵みにお頼りいたします。

わたしのいのちをすべて、

あなたの御手にお委ねいたします。

あなたの思いの通りに、

わたしに最も善いことを行ってください。

生きるときも死ぬときも、

わたしはあなたとともにあり、

わたしの神よ、あなたは

わたしとともにいてくださいます。

主よ、わたしはあなたの救いを、

あなたの御国を、待ち望んでいます。

アーメン

平野克己著 「祈りのともしび」より

ダイートリツヒ・ボン・ヘツフアーの祈り

今日のお知らせ

○今日からアドベント（待降節）です。二千年前に主イエスが馬小屋の幼な子として来てくださったことを祝い、世の終わりに再び来られることを思いながら過ごします。説教壇のろうそくに一本火が灯されました。

○第二礼拝後、ホールでアドベントを迎える会をします。お昼はお弁当です。

○午後一時半から教員員懇談会を開きます。初めに、来年度からの奉仕体制の変更について役員会からの報告と質疑を行い、次いでクリスマススイズ礼拝の体制について話し合います。教員はご出席ください。

○二月二十四日（月）午後四時半と六時半の二回、クリスマススイズ礼拝を行います。今、受付、案内、献金奉仕などの奉仕者を募集しています。短時間でもご奉仕いただけると感謝です。ロビーに奉仕部署の一覧がありますので、お名前を書き込んでください。

○明日三日（月）午前10時半から午後四時まで、ホールで東京説教塾の例会があります。クリスマス説教を学びます。

○古村牧師は六日（木）午前10時半から青山学院大学の礼拝で奉仕をします。

○葉園香音楽伝道師は、二月八日（土）午後二時から日本キリスト改革派教会坂戸教会でクリスマスコンサートのお奉仕をします。どうぞお祈りください。

讃21 242番 主を待ち望むアドベント

Wir sagen euch an den lieben Advent
詞：Maria Ferscht, 1895-1982

WIR SAGEN EUCH AN DEN LIEBEN ADVENT
曲：Heinrich Rohr, 1902-

1-4 主を まちのぞむ アドベント、
最初の、
第二の、
第三の、
最後の、
ろうそくともろう。

主が みちを そなえ たら、 このと きを まもろう。
主が なさく れたそ のよう に、 たか いに たす けよう。
主は めくみ てりか がや き、 く らや み を て らす。
主は この世 にき たりた む。 こころ こ め、 う た おう。

(くりかえし)
主のた みよ、 よろこ べ。 主はち -か い。

♩ = 104

聖書の会へどうぞ

12月5日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「幾方人ものユダヤ人が」
使徒21章17〜26節

黄允湜副牧師

●聖書の夕べ(19時)

「主の祝福の中で」

ルカ24章44〜53節

古村和雄牧師

次週礼拝

●第一礼拝(午前9時30分)

讃美歌 主を待ち望むアドベント

説教「必ず実現する」

聖書 ルカ1章5〜25節

説教者 黄允湜副牧師

●第一礼拝(午前11時10分)

讃美歌 94番 274番

詩篇 46篇

説教「人の道の真実を生きる」

聖書 ローマ2章17〜29節

説教者 古村和雄牧師

97番



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 主を待ち望むアドベント
97番

説教 「主が再び来られるとき」

聖書 ルカ21章25節～36節(新約P152)

司式 山名隆史 兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲 「一輪のバラは咲きて」 J.ブーム

○主を待ち望むアドベント(3面に楽譜があります)

1.主をまちのぞむアドベント

さいしょのろうそくともそう

主が道をそなえられた この時を守ろう

主のたまよ よろこべ 主はちかい

2.主をまちのぞむアドベント

だい2のろうそくともそう

主がなされていたそのように たがいにたすけよう

主のたまよ よろこべ 主はちかい

3.主をまちのぞむアドベント

だい3のろうそくともそう

主のめぐみ てもりがやきくらのやみをてらす

しゅのたまよ よろこべ 主はちかい

4.主をまちのぞむアドベント

さいごのろうそくともそう

主はこのよにきたりたもう 心こめうたおう

主のたまよ よろこべ 主はちかい アーメン

○オルガンによる讃美

「羊飼いたちの笛のキャロル」 D.ウヰ

○讃美歌97番

1.朝日は昇りて 世を照らせり

暗きにすむ人 きたりあおげ

知恵に富みたる主 世にいでたり

愚かなる人は きたりまなべ

2.方にみつる主 世にのぞめり

かよわき人々 きたりたのめ

安きを賜う主 世にくだれり

苦しめる人は 来たり受けよ



第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 95番 532番

詩篇 第46編(旧約P880)

説教 「荒れ野を耐えられた主」

聖書 マルコ1章12節～13節(新約P61)

司式 山名隆史 兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 菊池美穂子 副牧師

前奏曲 「来たりませ異邦人の救い主」 J.S.バッハ

○讃美歌 95番

○オルガンによる讃美

「羊飼いたちの笛のキャロル」 D.ウヰ

○聖歌隊による讃美

「星よ光りて」 作詩 水野源三 作曲 川口耕平

ユダヤの国の 小きき村に

悩み苦しむ 人々すくう

神の一人子 生まれしことを

知らせよ知らせよ 星よ光りて

君の君をば 拝するために

暗き夜道も 喜びいさみ

歩むものを はるか導き

進めよ進めよ 星よ光りて

救いのみ子が うぶ声あげて

ま白きぬので くるまれたまい

静かに眠る うまやの上に

とまれよとまれ 星よ光りて

○讃美歌 532番

聖餐曲 「来たりたまえ異邦人のすくいぬし」 G.B.カフマン

後奏曲 「ノエル」 A.ギルマン

3.救いを賜う主 世に生まれぬ

高きも低きも きたりいわえ

天地しらす主 よにあらわる アーメン

よろずの者みな どよみうたえ

聖餐曲 「パストラール」 F.ブリッ

後奏曲 「ノエル」 A.ギルマン